



漫画大好き知事、尾崎正直と 弘兼憲史の夢の対談が実現 柔らかアタマで高知を元気に



対談の後に味わった高知県の郷土料理、血鉢料理。

数多くの漫画家を輩出し、漫画文化の推進を旗印に「まんが甲子園」など数々の振興策を実行中の高知県。その知事は大の漫画好きで県庁内に「まんがコンテナーズ」を創設するほど。漫画の持つ柔軟で親しみやすい発想法で高知県を元気にしたいのだという。

**高知県は「まんが王国」
実力派作家を多数輩出**

弘兼 高知県というところは優れた漫画家をたくさん生み出していますよね。なぜでしょうか。やなせたかしさん、黒鉄ヒロシさん、それから西原理恵子さん、亡くなった青柳裕介さん、はらたいらさんもうそうでしょう。

尾崎 最近の漫画家さんですと深夜食堂の安部夜郎さんも高知です。高知は人口あたりでは他県と比べて断トツに漫画家が多いらしいです。弘兼 いやあすごいな。

尾崎 漫画は世の中を裏から斜めから見る。そのうま味だけではない。伝えない細部まで絵に描く総合芸術です。しかし、弘兼先生には少し失礼かもしれませんが、毒もあるからまだ主流にはなりきれていない芸術だとも思っています。そうした中で反骨に生き、そこから主流を脅かしていく。これが土佐人の血かもしれません。

弘兼 なるほど。坂本龍馬を生んだ土地柄ですからね。しかし知事は漫画に詳しいですね。

尾崎 はい。小学校の頃からこの頃は当然70代の主人公も描いていくと思います。

尾崎 高知県を舞台にした話も描いておられます。初期の頃。弘兼 よくぞ知っています。

尾崎 改めて読み返してみました。主人公のモデルは僕の同級生なんです。弘兼 65歳以上、あるいは70代の恋つまずき家族というの書いていくことになるでしょうね。

尾崎 高知県の中山間地域は自然環境が素晴らしい。過疎化と高齢化に悩んでいますが、幸いお年寄りたちは元気です。畑仕事、山仕事をしていますから都会の方々と比べると元気なかもしれません。そういうところに行きますと弘兼先生と同じ65歳ぐらいの年齢はまだ若手ですよ(笑)。

弘兼 そうか。若手か。定年してから15年から20年、この人生の最

期間好きです。高校はブランドンク期間でしたが、大学時代に漫画復活(笑)。電車の中で漫画を読んでいたら、隣の酔っぱらった年配の男性に「大学生なんだから漫画じゃなく活字の本を読め」とからまれたんです。その時は頭にきて言い返しました。「漫画には政治も経済もあるんだ。なかなか高等なんですよ」。

弘兼 偉い。僕が学生の頃はもっとひどかった。漫画家になるなどといった両親はもとより周囲の大人たちはみんな大反対でした。

尾崎 かつて漫画は少年少女向けが主流でしたよね。

弘兼 そうです。それが1960年代の終わりに青年誌というものが出てきて、芸術性の高い作品や社会派といえる作品が登場してくるんです。

尾崎 難しいことでも親しみやすい絵と台詞、作品によっては解説文も加わってくる。ストーリー性が高いのも魅力的。漫画家の方々は漫画の力で地域振興



尾崎正直 昭和42年、高知市生まれ。東京大学経済学部卒業後、大蔵省(現・財務省)入省。平成19年、財務省退職。同年高知知事に初当選。現在2期目。



弘兼憲史 昭和22年、山口県生まれ。早稲田大学卒業後、現在のパナソニック勤務を経てデビュー。平成7年「黄昏流星群」連載開始。

も開催し続けています。そこから若い漫画家が続々と巣立っていきました。

弘兼 それだけ行政がバックアップしてくれるなら、われわれ漫画家は住みやすそうだな(笑)。

**一度飲めば家族同然
高知県は「高知家」**

尾崎 ぜひ遊びにきてください。いいところご案内しますよ(笑)。

弘兼 高知県の魅力といえますと気候温暖で、海、山、そして四万十川や仁淀川という清流がある。尾崎 確かにそうです。自然環境の素晴らしさはもちろん自慢です。でも自然に恵まれた土地は全国各地にあります。高知県は食べ物もて、連年「地元産」ではおおいしい。ある旅行雑誌のアンケートで「連年」地元産ではおおいしい。食べ物が多かった部門で1位をとったんですよ。それから人柄が良く、旅人にやさしい。酒飲めればおまけに一度飲んだら高知ではもう「家族」の員です。

弘兼 ええ。花見を想像するな(笑) 確かに高知の代表的な郷土料理の血鉢(さわり料理)。今日も並んでいますが、これは大皿に刺身や寿

司などを山盛りにして、大勢でつき合ふ料理文化ですね。この料理スタイルは確かに大家族的です。尾崎 そうでしょう。一度一緒に飲めばすぐに家族みたいになるんですよ。

弘兼 今の日本は家族というものを考え直すことが必要かも。日本的な企業経営のあり方を、家族的経営といってきましたが、家族、家族的という意味が昔とはずいぶん違うのではないですかね。

尾崎 離れて暮らしていたとしてもお互いに思いを寄せ合っているのが家族の基本ですよ。高知ではそんな面白い合う思いが単に血縁で結ばれた関係だけではなく、地縁で結ばれた関係だけではないんですよ。

弘兼 近所を心配したり、お世話できないかもしれないけど声を掛け合ったり。そういうことが必要なんです。今、僕は65歳ですが

**高知県の中山間地域へ
家族の本質を知る旅**

弘兼 「黄昏流星群」という作品ですが、あれは主人公を自分自身と重ね合わせている部分が多い作品なんです。今、僕は65歳ですが



連載18巻目となる「黄昏流星群」尾崎知事の主人公がモデルになっている高知県を舞台にした「まんが王国」好かれ星は単行本35巻に収録されている。



「まんが王国」土佐のポータルサイト

http://mangaoukoku-tosa.jp

●高知家に関する情報はこちら

http://www.kochike.pref.kochi.lg.jp/~top/